

審判員派遣報告書

派遣事業名	全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技	派遣期日	令和3年8月9日～8月13日
報告者	仲地祥吾	派遣先	新潟市東総合 SC 他

1 大会概要

大会名称	全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技	大会期間	令和3年8月10日～8月15日
大会概要	各都道府県の子選を勝ち抜いたチームが集まり、トーナメント形式で日本一を決める大会。今大会は、男子と女子が別日程で開催された。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月10日	会場	新潟市東総合 SC
審判クルー	CC: 仲地祥吾 U1: 寺島慶子（石川） U2: 石河宏美（福島）		
担当試合	鹿屋女子 VS 広島皆実		
試合内容	序盤は均衡した試合であったが、後半から広島皆実がペースを掴み快勝した。		

日程	令和3年8月12日	会場	新潟市東総合 SC
審判クルー	CC: 熊谷久美子（青森） U1: 仲地祥吾 U2: 中根悟（新潟）		
担当試合	京都精華 VS 鵬学園		
試合内容	両チームに外国人籍の選手が在籍。序盤から京都精華がリードし快勝した。		

日程	令和3年8月13日	会場	新潟市東総合 SC
審判クルー	CC: 尾形美樹（長野） U1: 岩井遥河（東京） U2: 仲地祥吾		
担当試合	岐阜女子 VS 開志国際		
試合内容	前半は一進一退の攻防が続いた。岐阜女子が堅守速攻を貫き終盤主導権を握った。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

今回のインターハイの開催は2年ぶりとなり、久しぶりに全国各県から審判が招集され大会が開催された。初めて顔を合わせるメンバーも多い中、重要となってくるのは審判の基本的な約束事項であるベーシックなメカニクス、POEの理解、PGCでの確認事項の共通理解であるということを感じた。今回のPOEは以下4点であった。

1 処置ミスゼロに向けて

チームファウルの確認、フリースローシューター・フリースローの本数の確認、得点の間違い等をしてないようにクルー全員で心掛けること。

2 トラベリング

全国大会でもイリーガルなステップを多用するチームが多くあった。ゼロステップを適用できるケースかどうか、軸足のずれや踏みかえは起こっていないかをしっかり確認しなければいけないと感じた。県内では昨年度より多くの審判がトラベリングについて理解を深めてくれている。引き続き重点事項としており組んでいくべきであると感じた。

3 ショットの見極め

女子であってもクイックスリーを多用するプレーヤーが多くなった。またPNRの普及により、2 or 3も含めてシュートが起きる付近で審判が確認すべき点が多くなっている。またビッグマン（留学生）がいるチームは3ポイントシュートだけでなく、ハイポスト付近のジャンプシュートについても着地まで確認しなければいけないと感じた。

4 RFG インテグリティ

女子日程では一回戦でRFGに含まれるTFが一件あった。率直な感想としては県内大会よりも全国大会の方がRFGやインテグリティに関する際どいケースがたくさんあると感じた。選手に対する言葉遣い、審判に対するアピールの仕方などは県内では見られないケースが多くある。私を含め県内審判員が全国大会においてガイドラインに抵触するものに対して毅然とTFがコールできるかどうかは非常に不安なところである。各カテゴリの地区大会や各種県大会において改めてガイドラインを確認していただき、何がよくて何が悪いのかの判断基準をしっかりと持っておいて欲しいと感じた。

○最後に

今回の派遣に際しましてご理解とご協力を賜りました松岡専務理事をはじめとする香川県バスケットボール協会の皆様に改めてお礼申し上げます。次年度の自県開催に向けて今回の経験を生かしていきたいと考えております。今後ご指導よろしく願いいたします。